第３８回水の週間実施報告書

平成２６年１０月

水の週間実行委員会

第 38 回水の週間中央行事は、後援機関及び協賛団体の

皆様のご支援・ご協力により開催されました。

主催機関

水循環政策本部　国土交通省　東京都

水の週間実行委員会

後援機関

文部科学省　厚生労働省　農林水産省

経済産業省　環境省　独立行政法人　水資源機構

公益財団法人　日本科学技術振興財団　日本放送協会　一般社団法人　日本新聞協会

協賛団体（五十音順）

公益財団法人 河川財団　一般財団法人 河川情報センター　一般社団法人 建設広報協会

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会　一般財団法人 国土技術研究センター　一般財団法人 砂防・地すべり技術センター

一般財団法人 砂防フロンティア整備推進機構　一般財団法人 水源地環境センター　石油連盟

一般社団法人 セメント協会　一般社団法人 全国建設業協会　公益社団法人 全国建築物飲料水管理協会

一般財団法人 ダム技術センター　一般社団法人 ダム・堰施設技術協会　電気事業連合会

一般社団法人 日本埋立浚渫協会　一般社団法人 日本衛生設備機器工業会　一般社団法人 日本ガス協会

一般社団法人 日本橋梁建設協会　一般社団法人 日本経済団体連合会　一般社団法人 日本建設機械施工協会

一般社団法人 日本建設業連合会　一般財団法人 日本建設情報総合センター　一般社団法人 日本水道工業団体連合会

日本製紙連合会　一般社団法人 日本鉄鋼連盟　一般社団法人 日本電機工業会

一般社団法人　日本ホテル協会　一般社団法人 日本林業土木連合協会　ビール酒造組合

公益財団法人　リバーフロント研究所

水の週間実行委員会委員団体

全国水土里ネット　公益社団法人 日本水道協会　公益財団法人　利根川・荒川水源地域対策基金

一般財団法人 造水促進センター　全国簡易水道協議会　一般社団法人　日本治山治水協会

公益社団法人 日本下水道協会　公益社団法人 土木学会　公益社団法人 日本河川協会

一般財団法人 日本ダム協会　公益社団法人 農業農村工学会　一般社団法人 日本工業用水協会

独立行政法人　水資源機構　特定非営利活動法人　日本水フォーラム

（目　　次）

第 38 回「水の週間」の開催にあたり　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第 38 回「水の週間」行事の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
水の週間中央行事「水を考えるつどい」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
平成 26 年度水資源功績者表彰　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
第 36 回全日本中学生水の作文コンクール　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
一日事務所長体験　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
第 29 回水とのふれあいフォトコンテスト　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
水の週間記念　第 34 回隅田川レガッタ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
上下流交流活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
水の週間一斉打ち水大作戦　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
国や地方公共団体等での実施状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
第 38 回水の週間新聞等報道状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
「水の週間」実施経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
水の週間実行委員会について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

※表紙の写真は、第 29 回水とのふれあいフォトコンテストグランプリ「柿田川　湧水を美しく（テラの活躍）」：白浜定市氏

「水の日」及び「水の週間」について

昭和 52 年 5 月 31 日
閣　議　了　解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年 8 月 1 日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

「水の日」及び「水の週間」制定の理由

わが国の水需要は、生活水準の向上、経済の進展等に伴って近年著しく増大してきたが、一方水資源の開発は次第に困難になっており、渇水時には水不足が生ずることが予想される状況となっている。

このような状況にかんがみ、毎年 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性に対する関心を高め、理解を深めるための諸行事を行うことによってわが国の水問題の解決を図り、もって国民経済の成長と国民生活の向上に寄与することとしたい。

なお、諸行事を行うためには、年間を通じて水の使用量が多く、水について関心が高まっている 8 月の上旬が適当であるので、その初日である 8 月 1 日を「水の日」とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」とするものである。

水循環基本法（平成 26 年法律第 16 号）

第十条　国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

２　水の日は、八月一日とする。

３　国及び地方公共団体は、水の日の趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

平成 26 年 7 月 1 日に水循環基本法が施行され、8 月 1 日は、国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解や関心を深める日として、法律で定められた「水の日」となりました。

第38回「水の週間」の開催にあたり

水の週間実行委員会　虫明功臣　会長

本年も「水の日」及び「水の週間」を迎え、本日ここに「水を考えるつどい」を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず初めに、水の週間中央行事の開催にあたりましては、ここにご列席の皆様の格別のご理解とご協力を賜りましたことを、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

昭和52年5月31日の閣議了解において、毎年8月1日を「水の日」とし、この日を初日とする1週間を「水の週間」として、全国で水に関する啓発行事を実施して参りましたが、本行事も今年で38回目を迎えました。

この「水の日」「水の週間」の取り組みが始まった昭和52年頃は、都市への人口や産業の集中、都市域の拡大、産業構造の変化等々の要因から、全国的な水不足、特に高松、松江、福岡などにおける渇水の頻発、河川・湖沼・閉鎖性海域の汚濁と汚染、都市水害の激化など、深刻な水問題を抱えた時期でありました。それ以降約40年の間に、ハード及びソフトの両面に渡って様々な対策が講じられた結果、当時と比べて改善はされて参りましたが、昨今においても、水に関連する問題は依然後を絶たないというのが現状です。

昨年以降の水事情を振り返ってみますと、昨年は、前半は渇水、後半は豪雨災害と多様な水災害が発生しました。少し具体的に見てみますと、5月中旬から8月にかけて、関東以西の18の一級水系23河川で取水制限を伴う渇水に見舞われました。特に、利根川水系利根川・江戸川ではたまたま10年近く取水制限がありませんでしたが、一昨年に続いて昨年も6, 7, 8月の少雨によって7月下旬から9月中旬にかけて、取水制限を伴う渇水がありました。本年につきましても、7 月に豊川、木曽川及び吉野川水系において渇水が生じたところであります。

一方、昨年7月末以降には、梅雨前線や台風等の影響による暴風や記録破りの大雨によって、人的被害をも伴う甚大な水災害が頻発しております。特に、昨年 9 月の台風 18 号により全国で生じた災害や、10月の台風26号に起因する伊豆大島での土砂災害、今年に入っても去る7月9日の長野県南木曽町での大規模な土石流災害が発生し、それぞれにおいて、その地域に住む皆様に甚大な被害をもたらしました。

今後、地球温暖化に伴う気候変動の進展によって、豪雨の強度と発生頻度が増大する一方で、無降雨や少雨期間の長期化や積雪量の減少といった事態が予測されるところでもありますが、改めて、水に関する防災や減災、持続可能な水利用の確保といった、安全・安心のための水に対する取組を実施することの必要性を認識させられたところです。

さらに本年は、去る7月1日に施行された「水循環基本法」により8月1日が「水の日」として同法に位置づけられ、同法に基づく初めての「水の日」関連行事を実施するという、記念すべき年でもあります。健全な水循環系の確保の重要性が法律という形で認知され、注目を頂いていることを大変喜ばしく思います。同法の成立に尽力された関係者の皆様に敬意を表しますとともに、この基本法の精神に沿って、流域を単位として、水量と水質、地表水と地下水を一体とした水循環マネジメントが具体的に進展する枠組みができることを大いに期待しています。

このような記念すべき年に行われる第38回「水の日」及び「水の週間」は、諸々の行事を通じて、健全な水循環系の確保、水資源の有限性、水資源開発・管理の重要性、水の恵みと脅威について、国民の皆様に広く理解と関心を深めていただき、今後水に関する防災や減災、持続可能な水利用の確保、さらには世界の水問題や水インフラの国際的展開や我が国の今後の技術開発等といった取組を推進していく、絶好の機会にいたしたいと考えております。

最後となりましたが、水の週間行事に対する皆様の今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせて頂きます。

平成26年8月1日

水の週間実行委員会会長　虫明　功臣

第38回「水の週間」行事の概要

行　事	実　施　内　容	主 催 者 等
水の週間中央行事	1. 水を考えるつどい 日時：平成26年8月1日(金)　10：00～12：00 場所：砂防会館別館　シェーンバッハ・サボー 内容： ①主催者挨拶 ②第36回全日本中学生水の作文コンクール表彰式 ③上記作文コンクール最優秀賞受賞者による作文朗読 ④東京大学生産技術研究所　沖大幹教授講演 ⑤内閣総理大臣（水循環政策本部長）メッセージ 2. 水のワークショップ・展示会 日時：平成26年8月12日(火)～14日(木)　10：00～17：00 場所：東京国際フォーラム（ガラス棟G701会議室） 内容：「水のハッピーデー　～水について学ぼう！～」をテーマに、小学生の親子を対象として、水にまつわる様々なワークショップやパネル展示を実施。	主催：水循環政策本部 国土交通省 東京都 実行委員会（注） 後援：文部科学省 厚生労働省 農林水産省 経済産業省 環境省 (独)水資源機構 (公財)日本科学技術振興財団 日本放送協会 (一社)日本新聞協会
水資源功績者表彰	水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績のあった個人並びに団体に対して、国土交通大臣表彰を授与。	主催：国土交通省
第36回全日本中学生水の作文コンクール	「水について考える」をテーマとして、中学生を対象に水の作文コンクールを実施。 都道府県の各地方審査等を経た作品を中央審査会で審査し、優秀作品に対して最優秀賞（内閣総理大臣賞）等を授与。	主催：水循環政策本部、国土交通省、都道府県 後援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、環境省、全日本中学校長会、(独)水資源機構、実行委員会
一日事務所長体験	全日本中学生水の作文コンクール優秀賞以上の受賞者の内、希望する者について在住地近隣の関係機関の事務所等において一日事務所長体験を実施。	
第29回水とのふれあいフォトコンテスト	健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する写真作品（例：「生命を支え、育む水」、「ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの」、「くらしの中の水」、「歴史とともにある水の風景」）を募集し、フォトコンテストを実施。優秀作品に対して、国土交通大臣賞等を授与。	主催：実行委員会 後援：国土交通省、東京都 （独）水資源機構
水の週間記念第34回隅田川レガッタ	日時：8月3日(日)　10:00～16:30 場所：隅田川（言問橋～吾妻橋間） 内容：一般・中学生等によるエイト、ナックルフォア競漕を実施。	主催：(一社)東京都ボート協会 後援：国土交通省、東京都 (独)水資源機構、実行委員会ほか
上下流交流活動	水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性についての啓発や、ダム水源地域の振興に資する上下流住民の連携に関する活動を行う団体等に対し、助成を実施。	主催：上下流住民の交流を促進する活動を行う市民団体、その他の団体
水の週間一斉打ち水大作戦	参加者に涼しさ（効果）を体感してもらうことで、水の有効利用、水について考える機会となるよう、雨水や風呂の残り湯などを使って打ち水を実施。	主催：地方自治体等、趣旨に賛同した団体、個人
施設見学会	ダムや浄水場などの水資源開発施設の見学会を各都道府県並びに（独）水資源機構等において実施。	主催：都道府県、(独)水資源機構ほか
その他	・全国各地で①講演会、②展示会など多彩な催しを実施 ・ポスターの配布・掲示	

（注）「実行委員会」とは、「水の日」・「水の週間」の趣旨に賛同し、政府による「水の週間」の各種の啓発活動と一体となった諸行事を積極的に実施することを目的として、水に関係の深い団体により設立された「水の週間実行委員会」を指すものです。

水の週間中央行事「水を考えるつどい」

平成 26 年 8 月 1 日（金）、砂防会館別館シェーンバッハ・サボー（東京都千代田区平河町）において、「水を考えるつどい」が開催され、約 550 名の方々に来場いただきました。

「水を考えるつどい」では、主催者挨拶の後、「第 36 回全日本中学生水の作文コンクール」における優秀作品（全 9 作品）の表彰、及び最優秀賞（内閣総理大臣賞）を受賞した片山裕里加さんによる受賞作品「棚田の米作りから考える水」の朗読をしていただきました。続いて、東京大学生産技術研究所の沖大幹教授による講演「地球をめぐる水と水をめぐる人々」が行われた後、最後に太田昭宏国土交通大臣（水循環政策担当大臣）から安倍内閣総理大臣（水循環政策本部長）メッセージの披露がありました。

その他、会場では「第36回全日本中学生水の作文コンクール」及び「第29回水とのふれあいフォトコンテスト」入賞作品等の展示を行いました。

◆主催者挨拶

土井亨国土交通大臣政務官

安井順一東京都都市整備局長

虫明功臣水の週間実行委員会会長

◆第36回全日本中学生水の作文コンクール最優秀賞（披露）

第36回全日本中学生水の作文コンクール
最優秀賞　片山　裕里加さん
（静岡県湖西市立白須賀中学校3年）

◆第36回全国中学生水の作文コンクール　受賞者集合写真

◆基調講演　「地球をめぐる水と水をめぐる人々」
東京大学生産技術研究所教授　沖　大幹氏

東京大学生産技術研究所教授　沖　大幹氏

講演風景

◆安倍晋三内閣総理大臣メッセージ

総理大臣メッセージを読み上げる太田昭宏国土交通大臣（水循環政策担当大臣）

【メッセージ全文】

水は、生命の源であるだけでなく、古より人々の営みの基礎として、田畑を潤し、社会・文化の繁栄を支え、今なお私たちに大きな「恵み」を与えています。

一方で、近年、渇水、ゲリラ豪雨、土砂災害など、水に関わる「災い」が頻発しています。昨年の台風26号による伊豆大島での大災害は、皆さんの記憶にも今なお新しいことと思いますが、先月も台風8号が大きな被害をもたらしました。さらに、世界的な人口増加による水需給の逼迫や、水環境に対する国民的関心の高まりなど、これまでの水をとりまく環境に大きな変化が生じています。

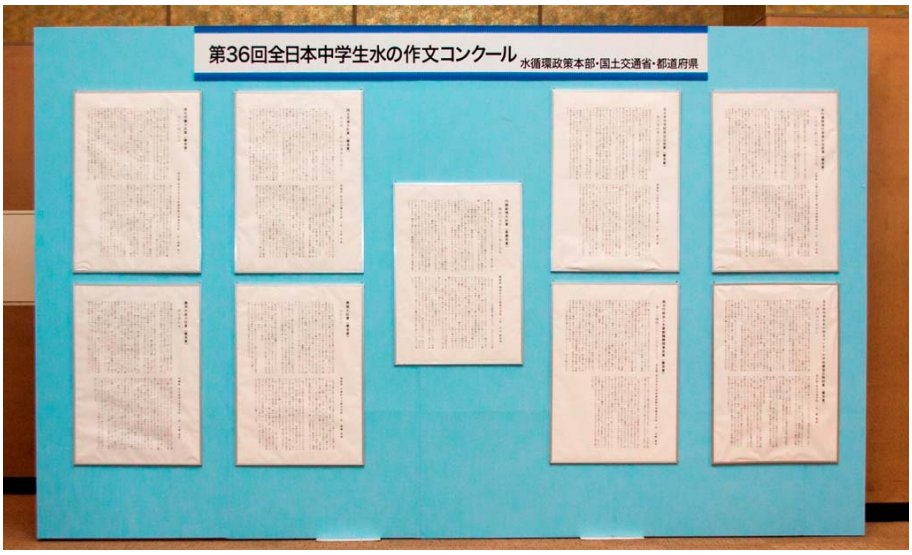
水の「災い」から国民の命と財産を守るという課題に対応しつつ、私たちの将来の世代にわたって豊かな水の恵沢を享受していけるよう、今を生きる私たちには、人間社会の営みと環境保全とのバランスを保ち、水循環を健全に確保していく責務があるのではないでしょうか。

このため、政府におきましては、先月、私を長とする水循環政策本部を設置しました。今後、来年夏までのできる限り早い時期に、政策の道しるべとなる「基本計画」を策定するとともに、その着実な実施により、政府を挙げてこの課題に取り組んでまいります。

本日は、法律で定められた初めての「水の日」です。これを機に、国民の皆様におかれましても、健全な水循環の大切さに改めてご理解をいただき、ともに考え、ともに行動していただけるよう心から希望いたします。

内閣総理大臣・水循環政策本部長 安倍晋三

◆入賞作品等の展示



第36回全日本中学生水の作文コンクール

第 29 回水とのふれあいフォトコンテスト

水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」

平成 26 年 8 月 12 日（火）から 14 日（木）までの 3 日間、東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内）が開催する「丸の内キッズジャンボリー2014」に参加し、一部スペースを借りて「水のワークショップ・展示会」を開催しました。

「水のハッピーデー　～水について学ぼう！～」をテーマに、小学生の親子を対象として、今年も多くの組織、団体により、水にまつわるワークショップ形式の催し並びにパネル展示及びブース出展が行われ、子供たちに水の大切さをより深く知っていただく機会としました。なお、開催期間中には、1,400 名を超える方々にご来場いただきました。

〈丸の内キッズジャンボリーとは〉

2007 年に東京国際フォーラムの開館 10 周年記念事業としてスタート。子供たちへの未来への夢を育む参加・体験型イベントは、丸の内の夏の風物詩として定着。参加した企業、団体、行政機関、NPO 法人などは 119 にのぼる。2014 年は延べ約 12 万 5 千人が参加。

◆展示会テーマ　「水のハッピーデー　～水について学ぼう！～」

【ワークショップ】

「LEGO®でつながる、広がる。夏休み親子水教室」　【特定非営利活動法人　日本水フォーラム】

「水道キャラバン特別編　東京の水道を学ぼう！」　【東京都水道局】

「森林の働きとおいしい水」　【一般社団法人　日本治山治水協会】

「田んぼの水の恵み」　【公益社団法人　農業農村工学会／全国水土里ネット】

「どかんと感動！！下水道　～下水道のためにできる３つのこと～」　【東京都下水道局】

【展示等出展団体】

・東京都水道局
・国土交通省水管理・国土保全局下水道部／東京都下水道局／GKP（下水道広報プラットフォーム）
・特定非営利活動法人　日本水フォーラム
・一般社団法人　ダム工学会／ダム工事総括管理技術者会
・公益社団法人　農業農村工学会／全国水土里ネット
・一般社団法人　日本治山治水協会
・国土交通省　関東地方整備局
・巧水（たくみ）スタイル推進チーム

「 ワークショップ 」

【特定非営利活動法人　日本水フォーラム】
LEGO®でつながる、広がる。夏休み親子水教室

「レゴ・ブロック」を使って自分と水との関わりを参加者自身で表現する、体験型のプログラムを実施。

【東京都水道局】
水道キャラバン特別編
東京の水道を学ぼう！

東京都の管理する様々な水道施設を、映像を通じて見学。安全でおいしい水道水ができるまでの取組などを学習。

【一般社団法人　日本治山治水協会】
森林の働きとおいしい水

森林に降った雨はどこに流れていくのか、森林が育んだ水はなぜおいしいのかなどについて学習。また、3 種類の森林の水（ミネラルウォーター）の試飲を行い、味の違いを体験。

【公益社団法人　農業農村工学会／全国水土里ネット】

田んぼの水の恵み

※運営

東京大学水利環境工学研究室

東京農工大学水利環境保全学研究室

田んぼに水をためることによりもたらされる水の恵みや、田んぼで暮らす生き物について説明し、農業用水の大切さについて学習。

【東京都下水道局】

どかんと感動！！下水道

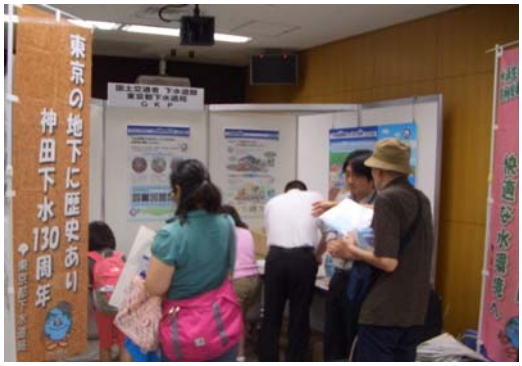
～下水道のためにできる３つのこと～

雨水が下水道に流れなかったら？/ティッシュペーパーとトイレットペーパーの違い/油が冷えて固まると？の３つの実験をとおして下水道のためにできる３つのことを学習。

「展　示」

【東京都水道局】

水道水の安全性及び安全確保の取組、また、くみ置き・節水など非常時に備えた対応について、パネルや模型を用いて紹介。



【国土交通省水管理・国土保全局下水道部／東京都下水道局／GKP（下水道広報プラットフォーム）】

下水道のしくみや役割、微生物などを紹介したパネル展示を実施。また、下水をきれいにするために重要な役割を持つ微生物を顕微鏡で観察。

【特定非営利活動法人　日本水フォーラム】

世界的な水に関する課題が全て大きな水の循環の中でつながっていることについて、直感的に感じることのできるパネルを展示。

【一般社団法人　ダム工学会／ダム工事総括管理技術者会】

「本物・手作り・参加型」を基本に水力発電模型の実演やダムクイズなどを通して、来場者の疑問にダム博士が答えると共に、ダムへの正しい理解や知識についての啓発活動を実施。

【公益社団法人　農業農村工学会／全国水土里ネット】

いのちを育む水の恵みや、農業を通じて育まれる文化や農村環境についてパネルで展示。また、タブレット端末を活用した、水利施設の仕組みや水の流れについて学ぶことのできるゲームを実施。

【一般社団法人　日本治山治水協会】

森林が育む水について理解を深めてもらうため、森林の働き等をパネルで紹介。また、全国各地の森林（もり）の水（ペットボトル）の展示を実施。

【国土交通省関東地方整備局】

関東広域で取組が進んでいる、コウノトリ・トキを指標種としたエコロジカル・ネットワーク形成の取組について紹介。

【巧水(たくみ)スタイル推進チーム】

「巧水（たくみ）スタイル」とは、賢く水を使う社会ということ。普通に生活をする中でこんなにも簡単に水を賢く使うことができるのだということをパネルで紹介。

※　なお、「水のワークショップ・展示会」は、J-POWER の「エコ×エネ体験プロジェクト」と相互協力の下実施しました。

平成 26 年度水資源功績者表彰

水資源行政の推進に当たって、水源地域の振興、水環境の保全、水源涵養、水資源の有効活用等に永年にわたって尽力されたことなど、特に顕著な功績のあった個人及び団体が、水資源功績者として表彰されました。表彰式が平成 26 年 8 月 4 日（月）に国土交通省特別会議室において開かれ、太田昭宏国土交通大臣から表彰状が授与されました。

［個人］２名

受賞者	功績概要
山田（やまだ）　登美夫（とみお） （神奈川県）	宮ヶ瀬ダムを活用した都市地域住民との交流事業に継続的に取り組み、地域活性化にも積極的に携わってきた。さらに、郷土資料館をあいかわ公園と一体整備するなど、宮ヶ瀬ダムと周辺施設が一体となった観光地づくりを進める上で貢献を果たした。
片渕（かたふち）　弘晃（ひろあき） ※片は異体字 （佐賀県）	地盤沈下の著しい白石平野の地下水依存から嘉瀬川ダムによる表流水への水源転換に多大な尽力をされてきた。また、嘉瀬川ダムの建設に協力し、上下流交流のほか、水源地域のハード・ソフト面の支援を推進した。

［団体］７団体

受賞者	功績概要
和賀川（わがかわ）の清流（せいりゅう）を守（まも）る会（かい） （岩手県）	和賀川流域である北上市・西和賀町の住民をはじめ、地元企業や行政機関など様々な団体から参加者があつまり、河川パトロール及び清掃活動、和賀川流域の自然探索会、地域の親水美化活動への支援を実施し、流域環境に対する意識高揚に多大な貢献をしている。
郡山市立湖南小・中学校（こおりやましりつこなんしょう・ちゅうがっこう） （福島県）	猪苗代湖の湖岸清掃や水質調査等を実施し、水生生物の環境整備に努めるとともに、地元の環境フォーラム等で活動発表するなど水環境整備の普及啓発活動に貢献している。
阿武隈川（あぶくまがわ）サミット実行委員会（じっこういいんかい） （福島県）	阿武隈川流域の福島・宮城県の 22 市町村が一体となり、流域の交流・連携により水資源の保全に貢献し、地域の文化・教育・上下流交流連携などの面で大きな成果を上げている。

川根本町エコツーリズムネットワーク （静岡県）	川根本町の自然・歴史・暮らし等を題材とした体験プログラムを実施することにより、水源地域である同町の活性化や他市町住民との交流の活発化に貢献している。
愛知用水土地改良区 （愛知県）	牧尾ダムを水源とする愛知用水事業の実現に向け尽力し、通水後 50 年以上にわたり、農業用水の適正な管理のため、水の重要性等の普及に努めている。また、水源地域の植樹活動や出前授業、水源地交流事業の開催など、水源地域の保全及びその啓発に貢献している。
特定非営利活動法人おとくにパオ （京都府）	長岡京市の西域 4 割を占める西山での活動を通じて、次世代を担う子どもたちに、自然環境の変化と資源の有限性に目を向けさせ、当たり前に使っている水が自然の中で育まれた貴重な資源であることを伝える取組みを積極的に行っている。
清水の恵みを守る会 （鳥取県）	明治 42 年、清水を利用した初めての水道が、住民の力で敷設され、湧水を守る清掃活動を約 100 年以上継続している。また、この清水を通した環境教育を実施するなど、地域の環境教育としての役割も大きい。

第36回全日本中学生水の作文コンクール

全国の中学生及び海外日本人学校在学の日本人中学生を対象に、「水について考える」をテーマとする「第36回全日本中学生水の作文コンクール」を開催し、本年は331校より総数19,419編の応募がありました。各都道府県の地方審査、中央審査会の審査等により、最優秀賞1編、優秀賞8編及び入選36編（P19参照）が選ばれました。表彰式は平成26年8月1日（金）に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーにて開催された「水を考えるつどい」にて実施され、最優秀賞受賞者に土井亨国土交通大臣政務官から、優秀賞受賞者に赤石清美厚生労働大臣政務官、小里泰弘農林水産大臣政務官、井上信治環境副大臣ほか、関係機関代表者から賞状が授与されました。

（1）主催等

主　　催：水循環政策本部、国土交通省、都道府県

後　　援：文部科学省、厚生労働省、農林水産省、環境省、水の週間実行委員会
独立行政法人水資源機構、全日本中学校長会

（2）募集要領

①テ ー マ：「水について考える」（題名は自由）

②原　　稿：400字詰原稿用紙4枚以内

（3）中央審査会審査委員　※ 50音順、敬称略

秋本　佳則　（国土交通省大臣官房審議官）
印藤　久喜　（農林水産省農村振興局整備部水資源課長）
大村　卓　　（環境省水・大気環境局水環境課長）
上村　寿一　（独立行政法人水資源機構理事）
須田　淳一　（全日本中学校長会編集部長）
須磨　佳津江（キャスター）
長崎　宏子　（スポーツコンサルタント）
松明　淳　　（公益社団法人日本水道協会調査部長）
宮崎　正信　（厚生労働省健康局水道課長）

※　本作文コンクールについては、今年度から政府全体の取組とするため、最優秀賞に内閣総理大臣賞を、優秀賞に厚生労働大臣賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞を新たに創設しました。

※　受賞者集合写真等についてはP6参照。

内閣総理大臣賞（最優秀賞）

棚田の米作りから考える水

静岡県　湖西市立白須賀中学校　三年　片山　裕里加

昨年の六月初め、県の鳥サンコウチョウが飛来する「不動谷の森」の棚田で田植えをしました。

湖西市北部の山間部には、昭和三十年代までは棚田が広がり、米づくりが行われていました。しかし、日本の高度経済成長とともに機械化が難しい棚田にはスギやヒノキが植えられ、いつしか日光が差し込まないような不健康な森となりました。

その不健康な森を再生し、健康な森にしようと、父がやっているボランティア団体が動き始めました。私も、よくそこに連れて行ってもらっていたので、荒廃した森の樹木の間伐や除伐、下草刈りの作業を手伝いました。このまま森を荒廃させてしまったのでは、森が死んでしまい、災害の原因になったり、動植物が生息できなくなったりしてしまうという危機感を持っていました。森全体からすれば、私たちの作業は一部でしかありません。しかし、作業をしているおじさんたちは、とても、生き生きとしていました。

それから四年が経ち、人が入れないくらいに荒れていた不動谷の森もすっかりきれいになりました。しかし、五十年も放置されていた棚田は、田んぼとして使えないくらいに土が荒廃していましたので、土づくりも大変な作業でした。枯れ葉を集めてたい肥にしたり、小川から水を引いてきたりしました。棚田も美しくよみがえりました。

田んぼは、米をつくるだけではなく、水をためておく大切な場所でもあります。水がたまれば、カエルやイモリ、トンボなどの水生生物が生息するようになり、それをえさにする鳥やヘビなどの動物も生息するようになります。植物も日差しを浴びてよみがえってきます。日光が差し込む森は、下草が茂り、豊かな自然がよみがえります。そして、そこからわき出る水が、棚田に蓄えられ、動植物が生息する豊かな環境が整えられます。

水があることによって、自然環境が豊かになり、心がいやされる空間となります。

「足が抜けないよ。」「泥だらけになっちゃったよ。」などと、棚田に多くの声が響き渡ります。森からわき出たり、小川から取り入れたりした豊かな水がはられた棚田に、手作業でしっかりと苗を植えていきました。泥だらけの服で休憩していると、渡り鳥で準絶滅危惧種のサンコウチョウの「ツキ、ヒ、ホシ、ホイ、ホイ、ホイ」という鳴き声が聞こえてきました。不動谷の森が整備され、棚田ができたことによって、えさとなる昆虫が増えたから聞くことができたのかもしれません。住宅地からそれほど離れていないところに、サンコウチョウが生息できる場所があることに驚きます。これも、森づくりをして、棚田を再生したからかもしれません。これが里山の営みだと、作業をしていたおじさんが教えてくれました。里山は、自然と人とが共存しながら、自然の恵みを私たち人間がいただくことができる大変ありがたいところです。

強い日差しの照りつける暑い夏には、泥だらけになって田の草取りをしました。成長した稲の穂が顔に当たってかゆくなるのですが、田の草取りがおもしろくて夢中になって取っていました。

十月には稲を刈り、十一月には脱穀をしました。

「いいにおいだ。」「これが新米か。」と言いながら、土づくりから一年掛けてできた米をおいしくいただきました。水からの恵みが、私たちの命を支えていることを実感した米づくりでした。

これからも、水があることによって、豊かな自然が守られ、私たちの命も支えられていることを多くの人に知らせていくとともに、水のありがたさを感じながら、森づくりや棚田の再生に取り組んでいきたいと思います。

第36回全日本中学生水の作文コンクール入賞者一覧

賞名	都道府県名	作文の題名	学校名	学年	氏名
内閣総理大臣賞 最優秀賞	静岡県	棚田の米作りから考える水	湖西市立白須賀中学校	3	片山　裕里加
厚生労働大臣賞 優秀賞	東京都	当たり前の生活	東京学芸大学附属国際中等教育学校	2	岡野　奈々
農林水産大臣賞 優秀賞	沖縄県	命を育む水	宮古島市立北中学校	2	大濱　愛里
国土交通大臣賞 優秀賞	愛媛県	水は命ー松山大渇水に学ぶー	松山市立椿中学校	3	今村　千春
環境大臣賞 優秀賞	福島県	ふるさと	大熊町立大熊中学校	2	齋藤　真緒
水の週間実行委員会会長賞 優秀賞	山梨県	その名に恥じぬ星にするため	山梨大学教育人間科学部附属中学校	2	小平　守莉
独立行政法人水資源機構理事長賞 優秀賞	東京都	多くの犠牲によってできたもの	東京学芸大学附属国際中等教育学校	2	山崎　蒼空
全日本中学校長会会長賞 優秀賞	島根県	我が家自慢のお米の秘密	大田市立北三瓶中学校	2	森山　愛
全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞 優秀賞	東京都	清い水のために	東京中華学校	2	潘　庸晶
入選（36編）	北海道	祖父母が教えてくれた水の大切さ	美唄市立美唄中学校	3	久恒　朱結
	青森県	水からのメッセージ	青森県立三本木高等学校附属中学校	1	梅田　千恵梨
	岩手県	生活を支える水	盛岡市立飯岡中学校	2	五代儀　光夏
	岩手県	自然からいただいた水とともに	盛岡市立飯岡中学校	2	熊谷　希
	岩手県	後世に引き継ぐ水	滝沢市立姥屋敷中学校	3	鈴木　綾
	宮城県	少しの意識で変わる未来	石巻市立稲井中学校	2	勝然　みなみ
	茨城県	水を救おう、すこし掬おう	土浦日本大学中等教育学校	1	加藤　涼芳
	栃木県	井戸を見直そう	佐野日本大学中等教育学校	1	中村　華
	栃木県	故郷の水を守るために	茂木町立中川中学校	3	廣木　未唯
	群馬県	生命の水	群馬大学教育学部附属中学校	2	長岡　京花
	埼玉県	私の家の水	川越市立初雁中学校	3	中村　日向子
	埼玉県	「奥秩父もみじ湖」	秩父市立大滝中学校	2	木村　有沙
	埼玉県	「あなたを支える水」	八潮市立八條中学校	3	早津　孝恵
	神奈川県	人間らしい暮らしと水	洗足学園中学校	1	仁科　満泉子
	新潟県	水と在る風景	上越市立柿崎中学校	3	廣田　花椰
	静岡県	海斗ダム（ミニダム）稼働中	富士宮市立富士宮第一中学校	3	小野　海斗
	三重県	命を支える水	皇學館中学校	1	角　綾華
	滋賀県	水と生きる	守山市立守山中学校	3	澤井　成美
	京都府	ゲリラ豪雨による浸水対策と環境安全	龍谷大学付属平安中学校	1	横山　寧々
	奈良県	水と暮らす	天理市立福住中学校	3	宮浦　りん
	広島県	八幡川の水	広島大学附属中学校	1	石井　夢乃
	徳島県	川からの住人	阿南市立那賀川中学校	2	廣瀬　萌瑚
	香川県	水のありがたさ	宇多津町立宇多津中学校	2	藤田　佑菜
	愛媛県	過去を生かした水の使い方	松山市立内宮中学校	2	齋藤　太一
	愛媛県	水と生きる	愛媛大学教育学部附属中学校	3	山中　真由
	福岡県	ふるさとの味	久留米市立屏水中学校	2	今村　麗紀杏
	佐賀県	ギニアワーム	学校法人松尾学園弘学館中学校	3	熊谷　澪
	熊本県	蛇口からミネラルウォーター？	熊本大学教育学部附属中学校	1	梅田　萌
	熊本県	水の大切さ	熊本市立錦ヶ丘中学校	3	東　礼次郎
	宮崎県	祖父母に導かれて	宮崎市立生目台中学校	3	花岡　知恵香
	鹿児島県	僕の島の水	三島村立大里中学校	1	谷口　海七斗
	鹿児島県	祖父の言葉から	阿久根市立大川中学校	3	凪無　遥香
	鹿児島県	水と生活の関わり	奄美市立赤木名中学校	3	福田　桃香
	フランス共和国	日本の水のありがたさ	日仏文化学院パリ日本人学校	3	保野　永久子
	フランス共和国	水について考えたこと	日仏文化学院パリ日本人学校	1	山中　侑紀
	オーストラリア連邦	あの瞬間を味わうために	メルボルン日本人学校	2	北村　祥子

一日事務所長体験

本年度より、全日本中学生水の作文コンクールの優秀賞以上の受賞者を在住地近隣の関係機関の事務所等に招待し、一日事務所長体験を実施する取組を始めました。本年度は、優秀賞以上の受賞者９名のうち、希望者５名が以下のとおり一日事務所長を体験しました（実施日順）。

○受賞者名　大田市立北三瓶中学校　森山愛さん
優秀賞（全日本中学校長会会長賞）
実施日　平成 26 年 8 月 19 日（火）
実施事務所　国土交通省中国地方整備局
出雲河川事務所

○受賞者名　山梨大学教育人間科学部附属中学校
小平守莉くん
優秀賞（水の週間実行委員会会長賞）
実施日　平成 26 年 8 月 21 日（木）
実施事務所　国土交通省関東地方整備局
甲府河川国道事務所

○受賞者名　宮古島市立北中学校　大濱愛里さん
優秀賞（農林水産大臣賞）
実施日　平成 26 年 8 月 25 日（月）
実施事務所　内閣府沖縄総合事務局
宮古伊良部農業水利事業所

○受賞者名　東京学芸大学附属国際中等教育学校　山崎蒼空さん
優秀賞（独立行政法人水資源機構理事長賞）
東京中華学校　潘　庸晶さん
優秀賞（全日本中学生水の作文コンクール中央審査会特別賞）
実施日　平成 26 年 8 月 27 日（水）
実施事務所　独立行政法人水資源機構　荒川ダム総合事業所

第29回水とのふれあいフォトコンテスト

主催等　主催　水の週間実行委員会
　　後援　国土交通省、東京都、（独）水資源機構
　　協賛　富士フイルムイメージングシステムズ（株）

募集作品　健全な水循環の重要性や水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について広く理解と関心を深めることに資する作品
例）・生命を支え、育む水
・ダムや水路、水道など水をつくり、供給するもの
・くらしの中の水
・歴史とともにある水の風景　など

募集期間　平成26年4月16日（水）～6月13日（金）

応募状況　総計　2,066点

作品展示　平成26年8月1日（金）
砂防会館別館シェーンバッハ・サボー　1階大会議室
平成26年8月4日（月）～8月15日（金）
国土交通省　合同庁舎3号館（1階展示スペース）
平成26年9月9日（火）～10月30日（木）
奈良俣ダム防災資料館「ヒルトップならまた」

審査員（敬称略）
中谷　吉隆（写真家）　秋本　佳則（国土交通省大臣官房審議官）
内田　勲（写真家）　藤井　寛行（東京都都市整備局長（審査当時））
筑紫　ゆうな（切り絵作家）　西川　智（水の週間実行委員会運営委員長）

※　この「水とのふれあいフォトコンテスト」は、「河川整備基金」の助成を受けて実施しております。

Our Life, with River
河川整備基金

「河川整備基金」は、河川整備を民間の協力を得て緊急に推進するため、政府の協力（閣議了解）に基づき昭和63年度に設立され、国民各層・企業・全国の地方募金委員会等が資金を拠出（寄付）して造成されているものです。
この基金の運用益（利息）から、安全で良好な“河川環境”を目指してよりよい“川づくり”に役立つ様々な活動に対して支援を行うことによりわが国の河川整備の効率的な推進に寄与することを目的としています。
河川整備基金では、これらの目的のために河川・ダム・砂防・海岸等に関する調査・試験・研究、環境整備対策、国民的啓発運動の様々な活動に対して助成を行っています。

【第 29 回水とのふれあいフォトコンテスト受賞作品】

〔グランプリ〕　　1 名

○　国土交通大臣賞

白浜（しらはま）　定市（さだいち）（静岡県）

画題：「柿田川　湧水を美しく
（テラの活躍）」

〔優秀賞〕　　3 名

○　東京都知事賞

藤澤（ふじさわ）　宏（ひろし）（茨城県）

画題：「神田川クルーズ」

○　水の週間実行委員会会長賞

橘（たちばな）　初雄（はつお）（兵庫県）

画題：「真夏の店先」

○　独立行政法人水資源機構理事長賞

高橋（たかはし）　洋（ひろし）（栃木県）

画題：「小さな冒険」

〔特別賞〕　　1名

○　審査員特別賞

吉田（よしだ）　宏（ひろし）（神奈川県）

画題：「神殿のような地下水槽」

〔特　選〕　　5名

「冬の静粛」	石　原　義　信	（東京都）
「私も船長さん」	伊　藤　良　一	（神奈川県）
「朝の湖面」	太　田　洋　之	（東京都）
「ダムに舞う」	長　谷　由　美	（愛媛県）
「流し雛」	多　和　裕　二	（東京都）

〔入　選〕　　10名

「静寂」	宮　田　憲　雄	「はあ～っ、極楽 極楽」	平　野　昌　子
「静寂のお堀」	野　瀬　　誠	「甲羅干し」	宇都宮　雅　江
「しあわせの船出」	小　片　正　一	「人間と水の共生」	増　田　興　次
「何が捕れたかな？」	長　　吉　秀	「農業の町」	酒　井　良　昌
「川のギャラリー」	清　田　道　子	「放水すだれ」	藤　島　純　七

水の週間記念 第34回隅田川レガッタ

隅田川は、高度成長期以降極めて劣悪な水質状況にありましたが、水資源開発公団（現（独）水資源機構）の武蔵水路事業を通じた利根川・荒川からの浄化用水の導入や東京都における下水道の整備などにより水質の浄化が大幅に進み、また近年行われている新しい水辺空間の創出に係る取組の効果なども相まって、快適な水辺空間を多くの市民に提供できる憩いの場となりました。

「水の週間記念隅田川レガッタ」は、水質の浄化が進んだことにより人々の生活の場に再び戻ってきた隅田川の姿を喜び、水に親しむ“水の週間”行事の一環として昭和56年から開催され、春の早慶レガッタとともに夏の隅田川の風物詩として定着してきたところであり、今年で34回目を迎えました。

今年の隅田川レガッタは、天候にも恵まれた中での開催となり、レース前には恒例となっている主催者による競漕の安全とレガッタ開催の告知を兼ねた浅草寺への安全祈願を行いました。

多くの観客が見守る中、参加登録51クルー（選手331名）にのぼる参加者の競漕と応援による熱戦が繰り広げられ、日頃から鍛えた自慢の腕を披露し観客からは惜しみない拍手が送られました。また、墨田区太鼓連盟による勇壮な和太鼓の応援演奏も行われ、水の週間記念隅田川レガッタの開催に華を添えました。

日　　時	平成26年8月3日（日）　10:00～16:30
コ ー ス	隅田川言問橋～吾妻橋（500m）　4コース
主　　催	一般社団法人東京都ボート協会
後　　援	国土交通省、東京都、墨田区、台東区、墨田区教育委員会 独立行政法人水資源機構、公益社団法人日本ボート協会、水の週間実行委員会
特別協力	墨田区立中学校吹奏楽部、墨田区太鼓連盟
協　　力	関東漕艇学生連盟、(社)東京都港湾協会、全国内航タンカー海運組合、屋形船東京都協同組合、向島五丁目西町、ライフタワー自治会、船宿あみ清、隅田川ローイングクラブ、江戸川区ボート協会
協　　賛	アサヒグループホールディングス株式会社、ライオン株式会社、東京ガス株式会社、墨田区観光協会、東京都観光汽船株式会社、浅草観光連盟、隅田川文庫、協同組合浅草商店連合会
競　　漕	26レース
競漕種目	①中学男子ナックルフォア　②中学女子ナックルフォア ③都区市町村対抗ナックルフォア ④チャレンジカップナックルフォア（男子、女子、ミックス） ⑤エンジョイカップナックルフォア（男子、女子、ミックス） ⑥エイト（男子、ミックス）

力漕するクルー

和太鼓による応援演奏

【競漕結果】

種目		賞名	賞位	チーム名
中学 ナックルフォア	男子	墨田区長杯	優勝	ワセダクラブ中学生 A
		水の週間実行委員会会長杯		
		水の週間記念賞	準優勝	錦糸中学校 B
			第 3 位	錦糸中学校 A
	女子	台東区長杯	優勝	ワセダクラブ中学生 C
		水の週間実行委員会会長杯		
都区市町村対抗 ナックルフォア	ミックス	水の週間記念賞	優勝	江戸川区役所ボート部
			準優勝	ミックスタマちゃんズ
チャレンジカップ ナックルフォア		東京都知事杯	総合優勝	早大理工碧水会　稲雲
	男子	水の週間記念賞	優勝	早大理工碧水会　稲雲
			準優勝	早大理工碧水会　暁
			第 3 位	警視庁 B
	女子	水の週間記念賞	優勝	レディーズタマちゃんズ
			準優勝	CPRC ミューズ
			第 3 位	ママさんパワーズ
	ミックス	水の週間記念賞	優勝	YLK プレトリア号
			準優勝	アイリス
エンジョイカップ ナックルフォア		東京都都市整備局長賞	総合優勝	マーチャンズ
	男子	水の週間記念賞	優勝	マーチャンズ
			準優勝	メタセコイア
			第 3 位	MIZU ボートクラブ X
	女子	水の週間記念賞	優勝	えどがわマドンナ
	ミックス	水の週間記念賞	優勝	らん RUN タマちゃんズ
			準優勝	MIZU ボートクラブ Z
			第 3 位	ワセダクラブ　エンジョイ
エイト	男子	国土交通大臣杯	優勝	葵水会
		水の週間記念賞	準優勝	駿台艇友会
			第 3 位	日本ボートマンクラブ
	ミックス	水の週間記念賞	優勝	パルテ会

表彰式風景

上下流交流活動

水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発、健全な水循環の重要性について、国民の間に広く理解と関心を深めるため、公募手続きを行った上、以下に掲げるダム水源地域等の上下流住民の交流を促進する活動計20件への助成等を実施しました。

○津軽ダム、西目屋（にしめや）村交流会

実 施 日：　平成 26 年 8 月 20 日(水)
場　　所：　東北地方整備局津軽ダム（青森県中津軽郡西目屋村）外
実施主体：　岩木川環境公共ネットワーク協議会
内　　容：　津軽ダムの重要性の理解促進に向け、水源地西目屋村及び受益地つがる市の住民による津軽ダムの現場視察及び住民交流会を開催。

○第9回いのちのコンサート～森と水そして月光のしらべ～

実 施 日：　平成 26 年 6 月 22 日(日)
場　　所：　あさひ月山湖「月光の広場」（山形県鶴岡市）
実施主体：　NPO法人　森と水
内　　容：　あさひ月山湖の「月光の広場」にて、幼児を対象とした「こどもうたあそび」、地元鶴岡市の児童・生徒による演奏、アーティスト（八神純子氏）のコンサートを開催。

○夏井川上下流小学校交流事業

実 施 日：　平成 26 年 9 月 10 日(水)
場　　所：　夏井川河口親水空間、四倉海岸、夏井小学校（福島県いわき市）
実施主体：　夏井川流域の会、夏井小学校（下流）小野町立夏井第1小学校（上流）
内　　容：　夏井川上下流の小学生が集い、海岸砂浜での砂の芸術作品づくり、河口親水空間での船乗り体験を実施。

○合唱組曲「利根川源流讃歌」第14回発表会

実 施 日：　平成 26 年 6 月 28 日(土)
場　　所：　みなかみ町カルチャーセンター（群馬県みなかみ町）
実施主体：　合唱組曲「利根川源流讃歌」発表・実行委員会
内　　容：　群馬県及び関東近県の利根川流域の上下流の人々の交流を目的として、「利根川源流讃歌（利根川の源流域で生きる人々や自然を称える 12 曲で構成）」の発表会を開催。

○水源の森で上下流意見交換会

実 施 日：　平成 26 年 8 月 23 日(土)
場　　所：　水資源機構滝沢ダム（埼玉県秩父市）外
実施主体：　NPO 法人　水のフォルム
内　　容：　埼玉県さいたま市ほか荒川下流域住民の参加を募り、滝沢ダム及び周辺の里山を見学したほか、秩父市の婦人会の方々との交流（地元の食材を使った食事会等）を実施。

○小鹿野町（おがのまち）・川越市いのちの水を訪ねる上下流交流事業

実 施 日：　平成 26 年 8 月 23 日(土)
場　　所：　埼玉県合角ダム（埼玉県秩父市及び秩父郡小鹿野町）外
実施主体：　小鹿野町・川越市いのちの水を訪ねる上下流交流事業実行委員会
内　　容：　埼玉県合角ダムの水源地小鹿野町と受益地川越市の小学生等参加者が集い、ダムの見学、河川清掃、利き水体験、魚のつかみ取り等を実施。

○第37回草木湖まつりにおける太鼓演奏

実 施 日：　平成 26 年 8 月 15 日(金)
場　　所：　みどり市東町運動公園（群馬県みどり市）
実施主体：　墨田区太鼓連盟
内　　容：　「草木ダム」竣工を契機に始まった草木湖まつりにおいて、同ダムに係る水源地域と下流の受益地域の相互理解・相互交流促進の一環として、受益地である東京都の墨田区太鼓連盟があづま太鼓の演奏を実施。

○荒川源流エコツアー

実 施 日：　平成 26 年 9 月 6 日(土)～7 日(日)
場　　所：　荒川源流域（埼玉県秩父市）
実施主体：　NPO法人　荒川クリーンエイド・フォーラム
内　　容：　荒川下流域を中心に参加者を募り、秩父市のNPO法人「森と水の源流文化塾」の協力の下、荒川源流域の間伐残材の搬出、鹿をみつけるナイトツアー、施設見学、秩父市の住民との交流・意見交換会等を実施。

○2014サマーキャンプ in KISOGAWA

実 施 日：　平成 26 年 8 月 10 日(日)～12 日(火)
場　　所：　水資源機構味噌川ダム（長野県木曽郡木祖村）外
実施主体：　NPO法人　木曽川・水の始発駅
内　　容：　木曽川の水源地域・木祖村と下流の受益地域・名古屋市及び日進市の児童が集い、木曽川源流の大自然の中でサマーキャンプ（カヌー、工作、そば打ち体験等）を実施。

○水と緑の感謝祭

実 施 日：　平成 26 年 9 月 27 日(土)
場　　所：　松原スポーツ公園（長野県木曽郡王滝村）外
実施主体：　未来世紀へつなぐ緑のバトン実行委員会
内　　容：　木曽川の水源地域である王滝村の森を守り育てる活動を通じ、都市部や愛知用水受益地との交流を深化することを目的として、森の間伐・除伐作業、コンサート、トレッキング等を実施（但し、9 月 27 日に発生した御嶽山噴火の影響で予定行事の一部を中止）。

○間伐材を活用した木工クラフト体験活動と地元の登山活動

実 施 日：　平成 26 年 8 月 20 日(水)、9 月 18 日(木)
場　　所：　生命の水と森の学習館（岐阜県揖斐郡揖斐川町）
実施主体：　一般財団法人　いびがわ生命の水と森の活動センター協議会
内　　容：　揖斐川流域の小中学校の児童生徒の参加を募り、徳山ダムの水源地揖斐川町の関係者の指導の下、ダム周辺の植生の学習会や水源林に係る間伐材を活用したクラフト活動（マイ箸づくり）を実施。

○愛知用水水源交流事業

実 施 日：　平成 26 年 7 月 7 日(月)～8 日(火)
場　　所：　水資源機構牧尾ダム（長野県木曽郡王滝村）外
実施主体：　愛知用水土地改良区
内　　容：　愛知用水の受益者である愛知用水土地改良区の構成員が、水源である牧尾ダム周辺の育樹作業を行ったほか、水源地王滝村の現状や今後の発展に係る意見交換を実施。

○余呉（よご）・姫里（ひめさと）子ども交流交歓会

実 施 日：　平成 26 年 7 月 19 日(土)～20 日(日)
場　　所：　姫里コミュニティー会館（大阪府大阪市）外
実施主体：　余呉・姫里子ども交流会実行委員会・姫里地域青少年育成会
内　　容：　淀川上流域である滋賀県余呉町と下流の大阪市東淀川区姫里地区の小学生が集い、琵琶湖・淀川の水が大阪に届くまでの仕組みを学習する外、ゲーム、工作活動などを実施。

○天ヶ瀬森林公園復旧整備活動と天ヶ瀬ダム裸地に植樹するどんぐりプロジェクト

実 施 日：　概ね月１回
場　　所：　天ヶ瀬森林公園（京都府宇治市）外
実施主体：　森林ボランティア　フォレスターうじ
内　　容：　天ヶ瀬ダムの所在地かつ受益地でもある京都府宇治市の住民が集い、ダム湖畔の天ヶ瀬森林公園の災害復旧整備活動、並びに公園内に自生するどんぐりの苗木への育成及び天ヶ瀬ダム裸地への植樹等の活動を実施。

○水はどこからくるのか？…出雲国の水源地、森と農地とダムをめぐる体験学習ツアー

実 施 日：　平成 26 年 8 月 1 日(金)
場　　所：　中国地方整備局尾原ダム周辺（島根県雲南市、奥出雲町）
実施主体：　NPO法人　さくらおろち
内　　容：　尾原ダム下流域の出雲市・松江市住民の参加を募り、ダム湖上流の農家との意見交換及び野菜収穫、河川管理の歴史と水循環、森林の役割と手入れに関する勉強会、奥出雲の名水の試飲、ダムの見学等、体験学習会を実施。

○さめうら水源の森整備交流会

実 施 日：　平成 26 年 6 月 6 日(金)～7 日(土)
場　　所：　高知県土佐郡大川村
実施主体：　NPO法人　新町川を守る会
内　　容：　下流部の徳島県、香川県の住民59名を募り、早明浦ダム周辺の森の下草刈りを行った外、水源地域で活動するNPO法人さめうらプロジェクトの源流活動報告会に参加し、意見交換を行った。

○レイク☆ドラマ　～さめうら湖で輪になろう～　らぶさめ（WE LOVE SAMEURA）遠泳大会

実 施 日：　平成 26 年 9 月 6 日(土)
場　　所：　水資源機構早明浦ダム（高知県土佐郡大川村）
実施主体：　大川村、NPO法人　さめうらプロジェクト
内　　容：　さめうら湖に親しみ、早明浦ダムの意義を学び、水源地域への関心を高めることを目的として、「村の生き字引」がガイドするダムクルーズ（遊覧船）やウォータースポーツなどを実施。村内外から約80名が参加した。

○氷川ダムかき殻まつり

実 施 日：　平成 26 年 6 月 8 日(日)
場　　所：　熊本県氷川ダム（熊本県八代市）外
実施主体：　次世代のためにがんばろ会
内　　容：　氷川ダムの受益地域である八代市内の高校の生徒や企業などからの参加を得て、二見漁港（八代市）で採取したかき殻を活用した氷川ダムの浄化活動を実施。

○かがやけ緑川！広げよう人の輪

実 施 日：　平成 26 年 8 月 3 日(日)
場　　所：　九州地方整備局緑川ダム（熊本県上益城郡美里町）外
実施主体：　NPO 法人天明水の会
内　　容：　緑川の水質浄化に向け、廃材の竹（有明海苔の養殖棚として使用したもの）を原料として竹炭を製造（竹炭のダム湖への投下は台風の影響により別の日に実施）。また、緑川流域上中下流住民の参加を得て、緑川ダムの勉強会及び見学、ダム上流河川の水生生物の観察会、川の安全教育等を実施。

○大山ダムふれあい「魚ッチング」

実 施 日：　平成 26 年 8 月 3 日（日）
場　　所：　水資源機構大山ダム（大分県日田市）
実施主体：　日田漁業協同組合
内　　容：　大山ダムの下流受益地である福岡都市圏の住民の参加を募り、鮎のつかみ取りや採捕した鮎塩焼きを実施。また、ダム湖への外来魚の放流禁止、ダム湖周辺の適正な利用を併せて PR。

水の週間一斉打ち水大作戦

○ 水の週間一斉打ち水大作戦 in 国土交通省の状況

平成 26 年 8 月 4 日（月）昼休みに、中央合同庁舎 3 号館正面玄関前にて「水の週間一斉打ち水大作戦 in 国土交通省」を実施しました。昨年度は渇水の影響で中止となりましたので、2 年ぶりの開催となりました。

国土交通省職員の手作りによる「打ち水」イベントも、今年で 11 回目となり、夏の恒例行事として知られるようになってきました。平成 21 年度から「水の日」・「水の週間」に併せた「水の週間一斉打ち水大作戦」として取り組んでおり、今回の国土交通省で実施した取り組みも、その一つです。打ち水は、原則として、お風呂の残り湯や下水再生水などといった二次利用水を活用するため、水資源の有効利用に結びつくだけでなく、ヒートアイランド対策にも貢献する取り組みとして、近年見直され、注目を浴びています。

打ち水に使用する水として、東京都下水道局から下水再生水約 700 リットルをご提供いただき準備しました。

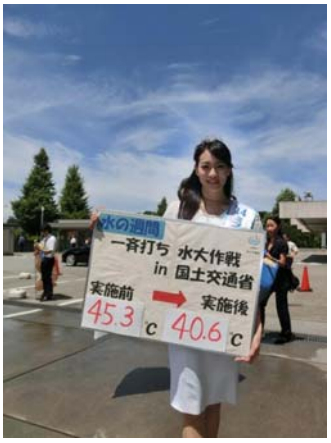
当日は好天に恵まれ、夏の日差しが降り注ぐ中、水管理・国土保全局の藤山水資源部長以下クールビズの国土交通省職員、はっぴ姿の東京都下水道局の職員に加え、平成 26 年度ミス日本「水の天使」臼田美咲さんや水資源功績者など、総勢約 80 人が参加しました。

「打ち水はじめ！」の号令とともに、一斉に撒かれた水により、10 分としないうちに、打ち水前は約 45.3℃だった地面の温度も、約 40.6℃まで下がりました。

皆様も打ち水を通じて涼しさや水を賢く使う先人の知恵を実感して頂き、水の有効利用について考えてみてはいかがでしょうか。

打ち水風景（ミス日本「水の天使」臼田美咲さんとともに）

打ち水風景（総勢約 80 名）



地面の温度が 45.3℃から 40.6℃に

参加者集合写真

国や地方公共団体等での実施状況

国土交通省をはじめとする国の各機関や地方公共団体等においても、水に関する理解を深めるための活動が広範に実施されました。

① 太田水循環政策担当大臣の現地視察及び山田教授(中央大)、ミス日本「水の天使」との鼎談

「水循環基本法」により制定された８月１日の「水の日」を前に、水循環に関連する現地を視察するとともに、中央大学の山田正教授、ミス日本「水の天使」の神田れいみさんと水循環政策に関する鼎談を行いました（P32 参照)。

② 「水の日」ポスターの掲出

国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるために、ミス日本「水の天使」の神田れいみさんを起用したポスターを約 20,000 枚作成し、関係府省庁、都道府県、市町村、中学校、東京メトロ等に配布、掲出しました（P37 参照)。

③ 冊子「日本の水」の配布

日本の水資源に関する現状等についてわかりやすくまとめ、年齢層を広くカバーできる内容とした一般向け冊子「日本の水」を 25,000 部作成し、都道府県をはじめ、市町村に配布したほか、展示会、講演会、施設見学会などの水の週間関連行事でも配布し、水資源の重要性や健全な水循環についての啓発を行いました。

④ 国土交通省内でのパネル展示

平成 26 年度水資源功績者表彰受賞者の功績概要、第 36 回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、第 29 回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品を合同庁舎 3 号館 1 階正面玄関横の展示スペースに展示し、国土交通省職員や来省者に水の大切さをＰＲしました（P33 参照)。

⑤ 地方公共団体等における取り組み

東京においては、水の週間中央行事である「水を考えるつどい」、「水のワークショップ・展示会」のほか、昨年度に引き続き、「子ども霞ヶ関見学デー」にて、「水について考えてみよう！」をテーマに、展示を実施しました。また、昨年度は中止となった「打ち水大作戦　in 国土交通省」や「水の週間記念 隅田川レガッタ」なども実施されました (P24 及び P30 参照)。

地方公共団体等においても、講演会やシンポジウム、施設見学会、上下流交流会、パネル展示、全日本中学生水の作文コンクールの地方表彰などの活動が実施され、新聞等により報道されました（P33～P34 参照)。

国・地方公共団体等における取り組み例

太田水循環政策担当大臣の現地視察及び山田教授（中央大学）、ミス日本「水の天使」との鼎談

日時　平成 26 年 6 月 23 日（月）

場所　墨田区役所雨水利用施設、隅田川、神田川、日本橋川

内容　8月1日の「水の日」に先駆けて、太田水循環政策担当大臣は、墨田区役所雨水利用施設や、隅田川、神田川、日本橋川などの都内の水循環に関連する現地を視察するとともに、中央大学の山田正教授、ミス日本「水の天使」の神田れいみさんと水循環政策に関する鼎談を行いました。

船上から神田川を視察

水の天使に隅田川の水質向上の説明をする太田大臣

子ども霞ヶ関見学デー　　～水について考えてみよう！～

日時　平成 26 年 8 月 6 日（水）～7 日（木）

場所　合同庁舎 3 号館 10 階共用会議室（東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3）

主催　国土交通省水資源部水資源政策課（巧水（たくみ）スタイル推進チーム協力）

内容　水を大切に使う方法を分かりやすく体験できる「巧水（たくみ）スタイルヒント！ボード」を展示したほか、水の重要性、貴重さなどの理解を深めるパネルの展示や第29回水とのふれあいフォトコンテスト入賞写真集や冊子「日本の水」の配布などを行いました。

子ども霞が関見学デー　会場風景

巧水スタイルヒント！ボードで遊びながら
節水について学ぶ子どもたち

※巧水（たくみ）スタイル推進チーム

節水意識の向上、節水型ライフスタイルの定着、節水機器・技術の普及等を目指し、産業界が中心となって、業界団体、学識者、地方自治体等が参画する活動チーム（2011 年 5 月に発足。）

国土交通省内での展示

日時　平成 26 年 8 月 4 日（月）～15 日（金）

場所　合同庁舎 3 号館 1 階正面玄関展示スペース（東京都千代田区霞ヶ関 2-1-3）

内容　平成26年度水資源功績者表彰受賞者の功績概要、第36回全日本中学生水の作文コンクール優秀作品、第29回水とのふれあいフォトコンテスト入賞作品を展示し、国土交通省職員及び来省者に水の大切さをＰＲしました。

水の作文コンクール優秀作品の展示

水資源功績者表彰受賞者の功績概要展示

【熊本県】平成 26 年度くまもと水の週間記念式典

日時　平成 26 年 8 月 3 日（日）　13：30～16：00

場所　熊本県庁本館地下大会議室（熊本県熊本市中央区水前寺 1 丁目 18 番 1 号）

主催　熊本県〔共催：(公財）熊本市水道サービス公社〕

人数　約 230 人

内容　環境省の名水百選及び平成の名水百選に8か所が選ばれ1,000を超える湧水を有するなど、地下水をはじめとする熊本の豊かな水の恵みを将来にわたって守り抜くため、私たちに何ができるか一緒に考えるための式典を開催しました。全日本中学生水の作文コンクールの熊本県表彰、優秀者による朗読や、熊本の水保全チャリティのテーマ曲「みずのうた」を作詞作曲した音楽家の志娥慶香氏による記念講演を実施しました。また、エントランスコーナーでは作文コンクール優秀作品や環境団体による啓発パネルの展示のほか、熊本の水と世界の水との飲み比べイベントを行いました。

「水の国くまもと」HP　：　http://mizukuni.pref.kumamoto.jp/

全日本中学生水の作文コンクール受賞者（熊本県）

エントランスコーナー（水の飲み比べ）

【神奈川県横浜市】水循環ってなあに？楽しく学べる　8 月 1 日「水の日イベント」

日時　平成 26 年 8 月 1 日（金）　11：00～15：00

場所　桜木町駅前広場イベントスペース（JR 京浜東北線・根岸線　桜木町駅前）

主催　横浜市（環境創造局、道路局、水道局）

人数　約 2,500 人

内容　横浜市では、水循環に関連する事業を行っている環境創造局、道路局、水道局の３局合同で、「水の日イベント」を開催しました。水循環を身近に感じてもらうため、水源かん養林や下水処理の仕組みなどがわかる模型、川の生物を見ることができる移動水族館などの展示を行いました。展示にあたっては、上流の水源林から、水を利用するための浄水場、利用後の下水処理から下流の河川へという水循環の流れにあわせたブース展開を行い、来場者に水循環を理解・イメージしてもらえるようにしました。

水源かん養林模型に
水を流してもらいました

みんなで打ち水

下水処理の仕組みと顕微鏡観察

【鹿児島県霧島市】第 2 回　水の週間イベント　～水について考える夏～

日時　平成 26 年 8 月 4 日（月）10:00～15:00

場所　霧島市役所（国分シビックセンター内）（鹿児島県霧島市国分中央三丁目 45 番 1 号）

主催　霧島市水道部

人数　約 300 人（アンケート協力者 267 人）

内容　「水の週間」に合わせ、「飲み水」としての水道水に関心を持ってもらうため開催しました。100％湧水・地下水を水源としている霧島の水道水と市販のペットボトル水を実際に飲み比べて、水道水の「おいしさ」を実感してもらうとともに、水質基準を示したパネル展示やチラシをとおして、水道水への理解を深めてもらいました。

　当日は、利き水及びアンケートの実施、管工事業協同組合のご協力による簡単な修繕の実演、児童向けに水道のしくみを説明する「夏休み自由研究サポートコーナー」、県薬剤師会のご協力による水質検査の実演、霧島茶の試飲・販売などを行いました。

利き水コーナー

自由研究サポートコーナー

水質検査の実演

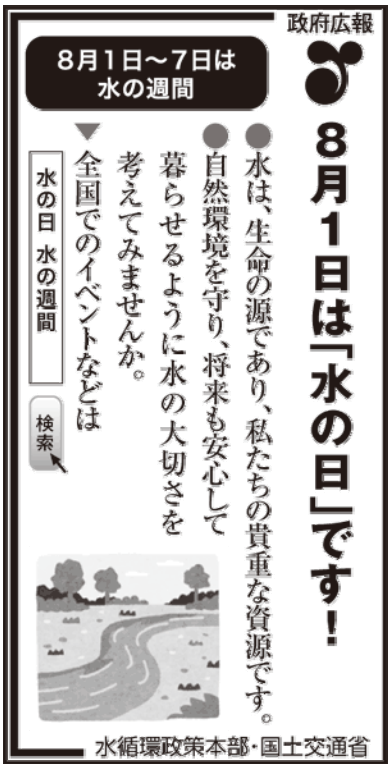
広報の取り組み

今年の「水の日」（8 月 1 日）は、水循環基本法による法制定後初の記念すべき日であることから、水資源の有限性や水の貴重さ及び健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるために積極的な広報を行いました。

政府広報　新聞突き出し広告

日時　平成 26 年 7 月 21 日（月）～　7 月 27 日（日）

内容　全国5紙（読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞）、
ブロック3紙（北海道新聞、中日新聞、西日本新聞）、地方62紙において、
「水の日」を啓発する新聞広告を掲載しました。



掲載紙一覧

7月21日　読売新聞

7月22日　北海道新聞、東京・中日新聞、西日本新聞

7月23日　産経新聞

7月24日　毎日新聞

7月25日　釧路新聞、十勝毎日新聞、苫小牧民報、室蘭民報、
函館新聞、東奥日報、陸奥新報、デーリー東北、
秋田魁新報、北羽新報、岩手日報、岩手日日、山形新聞、
河北新報、福島民報、福島民友、上毛新聞、茨城新聞、
下野新聞、千葉日報、神奈川新聞、埼玉新聞、新潟日報、
北日本新聞、北國・富山新聞、福井新聞、日刊県民福井、
信濃毎日新聞、長野日報、山梨日日新聞、静岡新聞、
岐阜新聞、東愛知新聞、市民タイムス、中部経済新聞、
奈良新聞、京都新聞、神戸新聞、伊勢新聞、紀伊民報、
山陽新聞、中國新聞、日本海新聞、山陰中央新報、
山口新聞、四國新聞、愛媛新聞、徳島新聞、高知新聞、
島根日日新聞、佐賀新聞、長崎新聞、大分合同新聞、
熊本日日新聞、宮崎日日新聞、南日本新聞、琉球新報、
沖縄タイムス、南海日日新聞、八重山毎日新聞、
宮古毎日新聞、夕刊デイリー

7月26日　朝日新聞

7月27日　日本経済新聞

政府広報　音声広報ＣＤ「明日への声」Vol.38

日時　平成 26 年 7 月

内容　政府広報音声広報CD「明日への声」は、政府の施策等を分かりやすい内容にまとめて収録したものです。このなかで、「8月1日は水の日、水はみんなの貴重な財産です！」をテーマにとりあげてもらい、点字図書館等で配布されたほか、ＨＰでも公開されました。

1. オープニング
2. 「もしも」に備えて、「今」作ろう！　わが家の『災害・避難カード』
3. 9月8日から14日は全国一斉「高齢者・障害者の人権あんしん相談」強化週間です
4. 公的年金に関する制度が一部改正されました
5. 「第29回国民文化祭・あきた2014」で秋田県の魅力再発見！
6. 「小倉百人一首を楽しむ」
7. この夏も、節電にご協力ください。
8. 世界の絹産業を支えた「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産へ！
9. 8月1日は水の日、水はみんなの貴重な財産です！
10. 新しい東北に出会う旅をしてみませんか。
11. 童謡・唱歌の世界
12. エンディング

政府インターネットテレビ

日時　平成 26 年 10 月 ～

内容　政府の動きや政府の重要政策を紹介する「政府インターネットテレビ」において、「『水』は限りある貴重な資源・・・大切にしよう わたしたちの水」というタイトルの番組を制作いたしました。このなかで、水資源の有限性や水の貴重さ、「水」を日々の生活の中で大切に使う工夫などについて紹介しました。（URL：http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg10562.html）

オープニング

早明浦ダム　満水時

早明浦ダム　渇水時

「水の日」ポスターの掲出

期間　平成 26 年 7 月 18 日（金）～　平成 26 年 8 月 7 日（木）

場所　関係府省庁、都道府県、市町村、中学校、東京メトロ（10 駅）等で掲出

内容　国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるために、「水の日」ポスターを作成、掲出し、「水の日」について周知しました。

水の日ポスター

東京メトロ　霞ヶ関駅

東京メトロ　永田町駅

国土交通省 広報誌　「国土交通」No.127　夏休み特別号

日時　平成 26 年 8 月

内容　国土交通省の施策や事業、活動などの情報を広く国民に発信し、国土交通行政に対する理解を深めていただくために作成されている国土交通省 広報誌「国土交通」の裏表紙に「水の日」ポスターを掲載してもらい、広く「水の日」について啓発を行いました。

第38回「水の週間」（平成26年度）都道府県行事一覧

項目 / 都道府県名	ポスター	パンフレット	映画会・音楽会・研修会講演会・シンポジウム等	上下流交流施設見学会等	アンケート街頭キャンペーン	展示会等	水の作文コンクール	広報・ＰＲ活動等					
								テレビ	ラジオ	新聞	広報紙	ホームページ	懸垂幕・横断幕電光掲示板・立看板
全国	47	4	12	14	10	17	47	7	9	15	16	38	16
北海道	○			☆			◎			☆		◎	☆
青森県	○						◎					○	○
岩手県	○						◎					○	
宮城県	○				◎	◎	○						
秋田県	○						○						
山形県	○						○				☆		☆
福島県	○		○			☆	◎		○	○		○	
茨城県	○			○		○	◎					○	
栃木県	○				○		◎	○	○			○	○
群馬県	○		○	○		○	◎			○	○		
埼玉県	○	◎		◎	○		◎				◎	◎	◎
千葉県	○			○		○	◎				○	○	○
東京都	○		○			○	◎			○	○		
神奈川県	○		☆				◎			○	○	◎	
新潟県	○						◎			○		○	
富山県	○						◎			○		○	
石川県	○						◎						
福井県	○			○		○	○			○	☆	☆	
山梨県	○		○				○	○	○	○	○	○	
長野県	○	◎				○	○						○
岐阜県	○		○			○	◎			○		○	
静岡県	○		○				◎					○	
愛知県	○		☆	☆		◎	◎				◎	◎	
三重県	○						◎					○	
滋賀県	○						◎			○		○	
京都府	○	○				○	◎					○	
大阪府	○			☆	☆	☆	◎	☆			☆	◎	☆
兵庫県	○						◎					○	☆
奈良県	○			◎		◎	◎					○	
和歌山県	○						◎	○	○	○		○	
鳥取県	○			◎			○						
島根県	○						◎				○	○	
岡山県	○						○					○	
広島県	○						◎					○	
山口県	○						◎					○	
徳島県	○				○		◎		○	○		○	○
香川県	○		○	◎			◎	○	○	○	☆	○	
愛媛県	○		☆			◎	◎				◎	◎	☆
高知県	○			☆	◎		◎					○	
福岡県	○			☆	◎		◎		○		○	○	○
佐賀県	○					○	◎					○	
長崎県	○				☆		◎	☆			☆	◎	☆
熊本県	○		○	☆	○	○	◎	○			☆	◎	○
大分県	○						◎		○				○
宮崎県	○						○		○	○		○	○
鹿児島県	○		☆		☆		◎					○	
沖縄県	○	◎				○	◎					○	

注）「ポスター」欄の○は、全国共通版（国土交通省作成）を配布したことを示し、◎は都道府県等で独自に作成したものも配布したことを示す。
「パンフレット」欄の◎は、都道府県等で独自に作成したものを配布したことを示す。（今年度、国交省では小冊子「日本の水」を作成しました。）
「作文コンクール」欄の◎は、都道府県レベルでの「地方表彰」を行っていることを示す。
それ以外の○は、都道府県が独自に取り組んでいることを示し、◎は都道府県に加え市町村等が独自に取り組んでいることを示す。
☆は市町村等のみが独自に取り組んでいることを示す。

第38回水の週間新聞等報道状況

月　日	都道府県	新聞等名	地域	見　　出　　し
4月4日	神奈川県	神奈川新聞	地方	作文コンクール作品募集
6月18日	北海道	プレス空知	地方	豊中１人、美唄中２人優秀賞　中学生水の作文全道コン　澁谷、長谷川、久恒さん
6月18日	栃木県	下野新聞	地方	水の作文コン優秀賞に5編
6月25日	東京都	建設産業新聞	全国	水のポテンシャル実感　太田水循環大臣が視察
6月26日	東京都	水道産業新聞	全国	水循環基本法をPR　太田大臣ら都内の河川など視察 下水道の役割も大きく
7月8日	香川県	RNCラジオ	地方	「香川用水通水40周年記念行事」について
7月9日	岩手県	東海新報	地方	新沼さん（吉浜中）が佳作入賞　県主催「水の作文コンクール」
7月10日	岩手県	岩手日日	地方	中学生水の作文コンクール　佐藤君（矢沢2年）が佳作に
7月10日	香川県	RNCラジオ	地方	「節水チャレンジ」について
7月23日	岩手県	盛岡タイムス	地方	天災、自然の力に思い　中学生水の作文コンクール飯岡中の7人が入賞
7月23日	山梨県	産経新聞	地方	水について学ぼう　県立図書館で講座
7月24日	北海道	北海道新聞	地方	中学生 道の作文コンクール　　水との共存に思い込めて　空知の３人最高賞独占
7月26日	山形県	読売新聞	地方	浴衣姿で打ち水
7月26日	山形県	毎日新聞	地方	浴衣姿で打ち水
7月26日	群馬県	上毛新聞	地方	水の役割　楽しく学ぶ
7月28日	東京都	日本水道新聞	全国	水の貴さ　循環の認識を
7月28日	香川県	西日本放送	地方	県政テレビ番組「ケロくんとたどる香川用水40周年　命の水を分かち合う」
7月29日	福島県	福島民報	地方	国交省の水資源功績者表彰 湖南小・中学校（郡山）阿武隈川サミット実行委
7月29日	福島県	福島民報	地方	齋藤さん（大熊中２年）優秀賞 全日本中学生水の作文コンクール
7月29日	福島県	福島民友	地方	湖南小・中阿武隈川サミット実行委 国交省　水資源功績者を受賞
7月29日	福島県	福島民友	地方	齋藤さん（大熊中）優秀賞　国交省　水の作文コンクール
7月30日	東京都	日本下水道新聞	全国	水の貴さ　循環の認識を
7月30日	北海道	プレス空知	地方	美唄中の久恒さん入選　　全国中学水の作文コンクール　道内唯一４５編の一つに
7月30日	茨城県	茨城新聞	地方	中学生水の作文　最優秀に加藤さん
7月31日	滋賀県	京都新聞	地方	中学生　水の作文コンクール
7月31日	奈良県	奈良新聞	地方	水の日特集(前編)
7月31日	香川県	毎日新聞	全国	「水の日」（8月1日）及び「水の週間」（8月1日～7日）について
8月1日	埼玉県	埼玉新聞	地方	水の作文コンクール埼玉県地方審査会表彰式について報道
8月1日	埼玉県	NHK（首都圏ニュース845）	地方	打ち水大作戦（本庄市）
8月1日	東京都	日刊建設工業新聞	全国	8月1日は「水の日」
8月1日	富山県	北日本新聞	地方	きょう8月１日は「水の日」
8月1日	福井県	福井新聞	地方	8/1（木）～7（水）は水の週間
8月1日	奈良県	奈良新聞	地方	水の日特集（後編）
8月1日	東京都	日刊建設工業新聞	全国	第３６回全日本中学生水の作文コンクール入賞作品
8月2日	栃木県	栃木放送	地方	水の日、水の週間について
8月2日	山梨県	山梨日日新聞	地方	山梨の水飲んで学ぶ　甲府　研究所員講師に「学舎」
8月2日	山梨県	朝日新聞	地方	山梨の水、違うよね　県立図書館で「水の日」イベント
8月2日	島根県	朝日新聞	全国	園児ら打ち水ひんや～り地面　　松江　水の日
8月2日	島根県	中国新聞	地方	下水道処理水　涼を呼ぶ　　松江「水の日」市長ら打ち水
8月3日	香川県	四国新聞	地方	香川を育む「命の水」 香川用水通水40周年

月　日	都道府県	新聞等名	地域	見　　出　　し
8月4日	埼玉県	埼北よみうり	地方	打ち水で涼しく　大気36℃⇒30℃　地表45℃⇒37℃（本庄市）
8月4日	東京都	日本水道新聞	全国	「水の日」で多様な催し　安倍首相がメッセージ
8月4日	熊本県	熊本日日新聞	地方	作文優勝者を表彰　「水の週間」県庁で式典
8月4日	東京都	日刊建設工業新聞	全国	8月1日水の日　法定化後初の記念行事開く　中学生作文表彰も
8月4日	東京都	建設産業新聞	全国	政府をあげ　課題解決へ　第38回水の日行事
8月4日	東京都	水道産業新聞	全国	水の恵み　健全な水循環を　8月1日「水の日」記念行事も開催
8月4日	神奈川県	水道産業新聞	全国	水循環・水環境の大切さPR　横浜市「水の日イベント」水道・下水道・河川が協力
8月5日	東京都	建設産業新聞	全国	水資源功績で9者表彰　「水の週間」で打ち水も　国交省
8月5日	東京都	日刊建設工業新聞	全国	水資源功績者 表彰式開く　国交省
8月6日	富山県	北日本新聞	地方	県中学生水の作文入賞者8人を表彰
8月6日	富山県	富山新聞	地方	水の作文コンクール入賞者8人を表彰
8月6日	京都府	京都新聞	地方	水の作文コンクール　入賞の3中学生を表彰
8月7日	和歌山県	わかやま新報	地方	優秀賞の3人を表彰　中学生水の作文コンクール
8月7日	沖縄県	沖縄タイムス	地方	大濱さんに農水大臣賞　中学生水の作文コン5人知事表彰
8月7日	沖縄県	宮古毎日新聞	地方	中学生水の作文コン　大濱さん（北中2年）農水大臣賞 入選に立津さん（北中2年）と仲間さん（伊良部中2年）
8月8日	福島県	福島民報	地方	齋藤さんら表彰 中学生水の作文県コンクール
8月8日	福島県	福島民友	地方	水の作文コンクール入賞者4人に表彰状
8月8日	静岡県	静岡新聞	地方	知事賞に大村、片山さん　水の週間記念作文コンクール小中学生を表彰
8月9日	岩手県	岩手日日	地方	水資源保護で大臣表彰
8月9日	滋賀県	中日新聞	地方	県中学生水の作文コン
8月9日	和歌山県	紀伊民報	地方	坂上さん（田辺中）が優秀賞　水の作文コンクール
8月10日	愛媛県	愛媛新聞	地方	水道管漏れ調査　応急給水も体験　松山市センターで教室
8月12日	栃木県	日刊建設工業新聞	全国	県など主催で優秀作品表彰　中学生の「水の作文コンクール」
8月13日	愛媛県	愛媛新聞	地方	水の大切さ　絵はがきで　松山市優秀作表彰
8月15日	岩手県	岩手日報	地方	和賀川の清流を守る会大臣表彰
8月15日	静岡県	静岡新聞	地方	全日本水の作文コンクール　片山さん（白須賀中3年）最優秀
8月17日	栃木県	栃木テレビ	地方	水の作文コンクール県表彰式
8月19日	兵庫県	神戸新聞	地方	県「水の作文」鳴瀧さん最優秀
8月20日	島根県	島根日日新聞	地方	水の大切さ発信します 中学生、一日出雲河川事務所長 国交省の作文優秀賞で森山さん
8月20日	島根県	山陰中央新報	地方	森山さん（北三瓶中2年）一日事務所長に　出雲　国交省河川事務所任命
8月20日	東京都	日本下水道新聞	全国	水の週間に合わせ　一斉打ち水　国交省
8月22日	山梨県	山梨日日新聞	地方	中学「水の作文」小平君が優秀賞　国交省一日事務所長体験
8月22日	鹿児島県	南日本新聞	地方	水道水飲んでおいしさ実感　ー霧島でイベントー
8月23日	島根県	島根日日新聞	地方	水の作文優秀賞を副知事に報告　北三瓶中の森山愛さん
8月23日	佐賀県	西日本新聞	地方	暑さ和らげ打ち水体験
8月26日	群馬県	上毛新聞	地方	水源地の大切さ学ぶ　都内の親子らダム見学
8月26日	鹿児島県	南日本新聞	地方	湧水・地下水100%　ー水道水（霧島市）ー
8月26日	沖縄県	宮古新報	地方	「水の日」作文受賞者、一日所長等で水利事業に理解
8月29日	愛媛県	愛媛新聞	地方	大渇水の教訓　母に学ぶ　松山・今村さん（椿中3年）作文大臣賞に
9月2日	徳島県	徳島新聞	地方	全日本水の作文コンクール　廣瀬さん(那賀川中2年)3席
9月3日	鳥取県	日本海新聞	地方	「布勢の清水」守り100年超

「水の週間」実施経過

メインスローガン「水ーこの限りある貴重な資源」「水は限りある貴重な資源です」

（国土庁発足　S49. 6.26）
（国土交通省に再編　H13. 1. 6）
（水循環政策本部発足　H26. 7. 1）

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備　　考
昭和 52 (1)	貴重な水・あなたと一緒に考えたい	水の用心	○水の週間展示会（国土庁会議室） （ポスター、パンフレット） ○第 1 回水資源に関するシンポジウム （10.25）	・水の週間閣議了解（5.31） ・国連水会議（3.14 ～ 25） ・第三次全国総合開発計画閣議決定
昭和 53 (2)	水の価値をみなおそう 水源地域の人々に感謝しよう 水とのふれあいのなかで……	水も難局だナ	○ウォーターフェア ’78 （銀座　松屋）	・水の週間実行委員会設立 （ 5. 8、11 団体） ・長期水需給計画策定 ・福岡渇水
昭和 54 (3)	水源地域の人々に感謝しよう 水の大循環の中で私たちは… 限りある水ーいまこそいかそう私たちの智恵ー	育てよう水 ー足どり確かに、 一歩一歩。ー	○ウォーターフェア’79 （船の科学館） ○第 1 回全日本中学生水の作文コンクール ○水資源功績者表彰 ○ウォーターフェアふくおか（福岡市）	・水資源世論調査
昭和 55 (4)	節水型社会をめざして 上下流の連帯を育てよう	貯めましょう日本の水 ーみんなの水を、みんなの水で。ー	○ウォーターフェア’80 東京 （科学技術館） ○上下流交流運動	・地域水需給計画推進 ・沖縄渇水
昭和 56 (5)	水源地の人たちに感謝しましょう いのちの水・水とのであい。	今日の水・明日の水 ー水みんなの和で 育てよう。ー	○ウォーターフェア’81 東京 （科学技術館） ○第 1 回ウォーターフェア隅田川レガッタ ○ウォーターフェアポートピア （兵庫県）	・水研究協力校の指定
昭和 57 (6)		丈夫な水に育てたい。	○ウォーターフェア’82 東京 （科学技術館） ○第 2 回水資源に関するシンポジウム （8. 3 ～ 5）	・長崎水害
昭和 58 (7)		やさしい、水、好き。	○ウォーターフェア’83 東京 （科学技術館）	・これより毎年、水資源白書作成
昭和 59 (8)		水の愛につつまれて	○ウォーターフェア’84 東京 （科学技術館）	・水資源局から水資源部へ改組 （国土庁） ・国際河川博覧会（アメリカ・ニューオリンズ）
昭和 60 (9)	考えよう水ーくらしと水・資源として水ー	水・ありがとう。	○ウォーターフェア’85 東京 （科学技術館） ○ウォーターフェア KOBE （神戸市）	・冬期渇水
昭和 61 (10)	築こう　水のある豊かな暮らし	いつも水といっしょ。	○ウォーターフェア’86 東京 （科学技術館） ○ウォーターランド（新宿副都心） ○第 1 回水とのふれあいフォトコンテスト ○ダム子供マラソン（宮ヶ瀬ダム）	・水資源世論調査 ・冬期渇水（西日本）
昭和 62 (11)	水のある豊かな暮らし	水は、ともだち。	○ウォーターフェア’87 東京 （科学技術館） ○第 3 回水資源に関するシンポジウム （浩宮殿下による特別講演） （8. 4 ～ 5）	・首都圏渇水 ・第四次全国総合開発計画閣議決定 ・全国総合水資源計画（ウォータープラン 2000）策定
昭和 63 (12)	水のある豊かな暮らし	ぼくの水、みんなの水。	○ウォーターフェア’88 東京 （科学技術館） ○水の日記念テレビトーク	・浩宮殿下展示会御台臨 ・竹下内閣総理大臣記念式典臨席
平成元 (13)	水のある豊かな暮らし	水、今日もありがとう。	○ウォーターフェア’89 東京 （科学技術館）	・皇太子殿下展示会行啓 ・宇野内閣総理大臣記念式典臨席
平成 2 (14)	水のある豊かな暮らし	水がささえる豊かな社会	○ウォーターフェア’90 東京 （科学技術館）	・人と水とのかかわり世論調査 ・首都圏渇水

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備　　考
平成 3 (15)	水が支える豊かな暮らし	水…みんなの宝	○ウォーターフェア’91 東京 （東京都庁）	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 4 (16)	水が支える豊かな暮らし	考えよう、水のあした	○ウォーターフェア’92 東京 （東京都庁） ○第 4 回水資源に関するシンポジウム （10.24）	・環境と開発に関する国連会議
平成 5 (17)	水が支える豊かな暮らし	水がなくては生きられないからね	○ウォーターフェア’93 東京 （墨田区役所）	・「国連水の日」制定（3.22）
平成 6 (18)	水が支える豊かな暮らし	すばらしい自然の恵み 「水」を見直そう	○ウォーターフェア’94 東京 （墨田区役所）	・村山内閣総理大臣記念式典臨席 ・全国的な渇水 ・人と水とのかかわり世論調査
平成 7 (19)		大切に使おう、かけがえのない「水」	○ウォーターフェア’95 東京 （墨田区役所）	
平成 8 (20)		天の恵み「水」。ありがとう。 「水」を見つめて、20 年。	○ウォーターフェア’96 東京 （科学技術館）	・皇太子ご夫妻記念式典、展示会行啓 ・橋本内閣総理大臣記念式典臨席
平成 9 (21)		夏、到来。	○ウォーターフェア’97 東京 （科学技術館） ○第 5 回水資源に関するシンポジウム （8．4 ～ 5）	
平成 10 (22)		みんなで考えよう、 水の大切さ…。	○ウォーターフェア’98 東京 （科学技術館）	
平成 11 (23)		「当り前」ではありません！	○ウォーターフェア’99 東京 （科学技術館） ○水源地域からのメッセージ	・新しい全国総合水資源計画（ウォータープラン 21）策定 ・小渕内閣総理大臣記念式典臨席、展示会視察
平成 12 (24)		水の力	○ウォーターフェア 2000 東京 （江戸東京博物館）	
平成 13 (25)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’01 東京 （東京都庁）	・国土交通省発足（1．6） ・全国的な渇水
平成 14 (26)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’02 東京 （新宿パークタワー） ○第 6 回水資源に関するシンポジウム （8．2 ～ 3）	・皇太子殿下記念式典、展示会行啓
平成 15 (27)		水の世紀。川の恵み。	○ウォーターフェア’03 東京 （科学技術館）	・長い梅雨、冷夏
平成 16 (28)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’04 東京 （科学技術館）	・東京の真夏日の連続記録更新 ・局所的な豪雨
平成 17 (29)		みんな水から始まった	○ウォーターフェア’05 東京 （科学技術館）	・全国的な渇水 ・局所的な豪雨
平成 18 (30)		水のある幸せ、これからも	○ウォーターフェア’06 東京 （科学技術館）	・皇太子殿下　水の展示会行啓 ・17 年末に全国で大雪、降水量首都圏は平年並み
平成 19 (31)		水がある、いのちがある。	○ウォーターフェア’07 東京 （科学技術館） ○第 7 回水資源に関するシンポジウム （8．3 ～ 4）	・春から 6 月にかけ西日本を中心に少雨続く、梅雨入りに遅れ、一部で渇水、夏に記録的高温
平成 20 (32)		水がはぐくむ和の暮らし	○ウォーターフェア’08 東京 ○水を考えるつどい（科学技術館）	・中国、四国地方を中心とした渇水 ・局所的な豪雨
平成 21 (33)		将来を安全・安心に暮らすため、水を大切に使う社会へ	○ウォーターフェア’０９東京 ○水を考えるつどい（科学技術館）	・中国、九州北部を中心とした記録的な豪雨
平成 22 (34)		水の安心・安全を考えよう！	○ウォーターフェア’10 東京 ○水の週間記念シンポジウム （科学技術館）	・局所的な豪雨 ・全国で記録的な猛暑
平成 23 (35)		水の恵み～東日本大震災を機に考える～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○「水の週間」水を考えるつどい （科学技術館）	・皇太子殿下水を考えるつどい行啓 ・平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨 ・全国で節電の夏
平成 24 (36)		水の恵みを未来に～健全な水循環の再生を目指して～	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム （科学技術館）	・平成 24 年 7 月九州北部豪雨 ・利根川水系渇水 ・全国で節電
平成 25 (37)		安全・安心な水のために	○水の週間中央行事「水の展示会」 ○水の週間シンポジウム（発明会館）	・全国的な渇水 ・全国で記録的な猛暑、局所的な豪雨

年・回	サブスローガン	ポスターキャッチフレーズ	実施事項	備　　考
平成 26 (38)		水とめぐる水のめぐみ	○「水の日」・「水の週間」記念水を考えるつどい（砂防会館） ○水の週間中央行事「水のワークショップ・展示会」	・水循環基本法施行及び水循環政策本部設立 ・「水の日」の法制定化 ・平成 26 年 8 月豪雨（広島、京都など） ・御嶽山噴火

※　全日本中学生水の作文コンクール、隅田川レガッタ、水とのふれあいフォトコンテストは、現在も継続中。

水の週間実行委員会について

昭和 53 年に、水に関係の深い民間団体により、「水の週間実行委員会」が設立され、「水の日」「水の週間」の趣旨に賛同し、この運動をさらに広汎な国民運動として推進することとして、政府・地方公共団体等が行う各種の啓発活動と連携して諸活動を実施している。

水 の 週 間 実 行 委 員 会 設 立 趣 意 書

（昭和 53 年 5 月 8 日設立総会）

かつて、ケネディは「21 世紀を制するものは原子力と水だ」と断言し、水問題の重要性を訴えたが、まことに水は国の産業経済の発展のみならず人類の生存に必須なものであり、水問題の解決なくしては将来の発展は考えられないといってよいであろう。

古来、我が国は、豊葦原瑞穂の国といわれ豊かな水に恵まれ“水の恩恵”を享受してきており、「水は天からもらい水」「湯水のように使う」などの言葉に示されるように水はいつでも好きなだけ使える無尽蔵な資源と考えられがちであった。

しかし、近年における生活水準の向上、産業経済の発展に伴い特に人口・産業の集中が著しい関東・近畿等の都市における生活用水、工業用水等の水需要が急激に増大し、渇水時における水不足や水質汚濁、地盤沈下等の問題を生じるところとなり、ようやく「水」が限りある資源として認識されはじめたところであるが、まだ十分とはいえない。

このため、政府は、昭和 52 年に 8 月 1 日を「水の日」とし、この日から 1 週間を「水の週間」と定め水に関する国民の理解と認識を深めることとして、水に関する各種の啓発運動を実施したところであるが、誠に時宜を得た意義深いものであり、今後とも積極的な展開が望まれるところである。

とりわけ、開発適地の減少等からダム等による水資源開発が次第に困難となり近い将来における水需要のひっ迫が避けられず、今後は水利用の合理化等の施策の推進が必要となっている今日の状況に鑑みるならば、「水の週間」における啓発運動をさらに積極的に推進し、国民一人一人が水資源開発の重要性を十分認識し、水の有限性・貴重さを理解し節水等の具体的な行動に留意するような効果的な運動として盛り上げることが必要である。

このような考えのもとに、政府による「水の週間」の各種の啓発運動と一体となった諸行事を積極的に実施し、もって水資源問題解決の一助に資するものとして、「水」に深いかかわりをもつ事業団体等によっての水の週間実行委員会を設立するものである。

水の週間実行委員会の組織

会長　虫明功臣（日本河川協会会長）

平成26年 8月 1日現在

団体名	実行委員		運営委員	
全国水土里ネット	専務理事	中條康朗	所長	鹿嶋弘律
造水促進センター	理事長	山本和夫	常務理事	平井光芳
日本治山治水協会	会長	山口俊一	専務理事	山田壽夫
日本河川協会	会長	虫明功臣	常務理事	住吉豊明
日本工業用水協会	会長	丹羽健一郎	総務部長	芳田丈夫
日本水道協会	理事長	尾﨑勝	調査部長	松明淳
全国簡易水道協議会	会長	牧田久	事務局長	若松五常
日本下水道協会	会長	小村和年	常務理事	石川清
日本ダム協会	会長	宮本洋一	専務理事	川﨑正彦
利根川・荒川水源地域対策基金	理事長	志水茂明	事務局長	志賀文夫
	常務理事	藤井友竝		
日本水フォーラム	代表理事	竹村公太郎	代表理事	竹村公太郎
土木学会	会長	磯部雅彦	専務理事	大西博文
農業農村工学会	会長	渡邉紹裕	専務理事	小前隆美
水資源機構	理事長	甲村謙友	総務部長	松本貴久
	理事	◎西川智		

団体名	実行委員	運営委員	
国土交通省（水資源部）	－	大臣官房審議官	○秋本佳則
		水資源政策課長	寺田文彦
		水資源計画課長	廣木謙三
		水資源政策企画官	児玉克敏
		専門調査官	茂田剛
東京都（都市整備局）	－	局長	安井順一
		都市づくり政策部長	上野雄一
		都市づくり政策部水資源・建設副産物担当課長	小口新吾

◎運営委員長　○運営副委員長

第 38 回「水の週間」ポスター

水の週間実行委員会事務局

〒330-6008　埼玉県さいたま市中央区新都心１１－２

独立行政法人　水資源機構　総務部広報課内

TEL　０４８－６００－６５１３